

営農情報（小麦）

第47号 令和3年12月10日

福岡大城農業協同組合

南筑後普及指導センター

令和4年産麦の播種は11月16日頃から順調に行われています。今後は、まとまった雨に備え、排水対策及び雑草対策を徹底するとともに、倒伏しない麦づくりのため、麦踏み・土入れを励行しましょう。

1 施肥基準（追肥）

緩効性肥料による追肥は、施用時期が極端に遅れると倒伏につながる恐れがあるので、遅播き（12月中下旬播き）のほ場においても施用時期を守りましょう。

(kg/10a)

品 種 名	肥 料 名	追肥施用量 (施用時期)	穂揃期追肥 (施用時期)
シロガネコムギ	麦追肥一発2号	40 (1月中～下旬)	—
ちくしW2号	硬質小麦専用追肥 3004	30 (1月下旬～2月上旬)	尿素4×2回 (赤かび防除同時)

※ちくしW2号はタンパク質含有率を高めるため、硬質小麦専用追肥3004を用い、穂揃期追肥を確実に行いましょう。

※穂揃期追肥は、10a当たり尿素4kgを、水100ℓに溶かして散布します。

2 麦踏み、土入れ

●麦踏み

麦踏みは、麦の分げつ促進と倒伏防止の効果があります。麦3葉期頃から2月下旬頃の節間伸長開始期までに3～4回程度実施します。作業に際してほ場が湿っていると、土壌を締めつけ生育を抑制することがあるため、土壌が十分乾燥した状態で行います。特に早播きしたほ場では、倒伏や凍霜害が発生しやすいため、麦踏みを徹底します。

●土入れ

土入れは、無効分げつや雑草の抑制及び排水対策などの効果があります。1月上旬頃から3月上旬にかけて2～3回程度実施します。また、追肥後に行うと肥効が安定します。土塊が大きくなるように、麦踏みと同様に土壌が乾燥した状態で行います。なお、土入れは麦の生育に応じて土の量を増やし、麦踏み前に実施します。麦踏み直後は避け、麦が土に埋もれないようにします。

3 雑草防除

薬剤名	適用雑草	使用時期	10a 使用量	備考
ハーモニー 75DF	一年生 広葉雑草	播種後～節間伸長前	5～10g (水 100L)	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーモニー細粒剤 F とハーモニー 75DF はいずれか 1 回しか使用できない ・<u>タデ</u>類に効果が高い
	一年生 広葉雑草	節間伸長開始期～ 穂ばらみ期まで (収穫 45 日前まで) ※大麦は使えません	3～10g (水 100L)	
ハーモニー細粒剤 F	一年生 広葉雑草	播種後～麦 3 葉期まで (雑草発生前～発始期)	4～5kg	
アクチノール B 乳剤	一年生 広葉雑草	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	100～200ml (水 100L)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>カラスノエンドウ</u>に効果が高い ・高温時は薬害を生じやすいため注意する ・<u>キンポウゲ</u>類への効果劣る
バサグラン 液剤	一年生 広葉雑草	生育期 (雑草の 3～6 葉期) (小麦：収穫 45 日前まで) (大麦：収穫 90 日前まで)	100～200ml (水 100L)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>キンポウゲ</u>類に効果が高い ・高温、晴天時に効果が高い

※カズノコグサ対策について

カズノコグサの多いほ場では、以下のような対策を行います。

- ① 播種直後に土壌処理除草剤(リベレーター)を使用。
- ② 1 月上～中旬にハーモニー75DF を 10a 当たり 10g、100ℓ の水に希釈して散布。
- ③ 土入れを実施 (薬害防止と除草効果安定のため、ハーモニー75DF 散布直前～散布後 1 週間以内の麦踏み・土入れは避けます)。

※農薬の散布にあたっては、近隣にある他作物、住居などに十分注意してください。

- 県では、様々な収入減少リスクに対する備えとして、収入保険 への加入を勧めています。
- ～「慣れ」と「油断」が事故を招きます～
”安全”な農作業と農薬使用を徹底しましょう！